

# イヤーノートは 研修医になっても使える!

国試対策のお供はもちろんQB!

…でもQBだけじゃ、わからないトコロはわかんない…

そんなときはイヤーノート!

いっぱい書き込んだイヤーノートは、学生時代の勉強した証…

国試後は思い出として、QBとともに、実家に置いておこう…

と、思っていないですか?



ちょっと待つて

## イヤーノートは研修医になっても使える!!

…と、先輩研修医は言っています。

そこで、

2年目初期研修医



Y先生

と

5年目後期研修医



N先生

に聞いてみましたっ

初期研修医中、  
こんな時に使えた!

- 複数の科の疾患を調べたいとき
- 1疾患についてサッと思い出したいとき
- 退院サマリーを書くとき

つかいこんだ  
イヤーノート



または

すぐ検索できる!  
電子版



無事に国試が終わって研修が始まる時、参考書、教科書、授業プリントの山たちをどう片付けようか迷いました。QBも予備校の参考書もどれもそれなりに思い入れのあるアイテムばかりです。ですが、私は**イヤードット1冊のみ**研修先に持っていくことにしました。国試用の参考書はすべて捨てました。だってもう国試受けないし！

私は大学病院で研修を開始しましたが、さすがに重たいのと、病棟にもそれなりに教科書がおいてあるので、病棟にいる間は持ち歩くことはしませんでした。しかし、研修医室の書棚にはいつもイヤードットを置いて休憩時間、終業後にばらばらとページをめくりました。学生時代の拙いメモ書きや、蛍光ペンの引かれた部分が、臨床現場でもやはり大事であることを何度も痛感しました。また、取り扱う内容の深さは、とても学生レベルを超えていて、現場でも十分に使えるものであることに改めて驚きました。私の周囲にも、私なんかよりもっと使い込んだイヤードットをもち歩いている研修医がたくさんいます。また**オーブン（指導医）からもイヤードットを見せてよ～と言われることもありました。**

**ある疾患について一から調べようと思ったとき**、内科学の教科書に当たるか、googleで検索をするか、Washington manualに当たるか、様々な方法がありますが、**結論的にはイヤードットから入るのが最も効率が良いと思います。**当然、研修医は学生とは立場が違って要求される知識の量が異なるので、その次にUp to dateやHarrisonを使うことにしています。いずれにせよ、学生時代からの努力の思い出が詰まった1冊は、私にとってこれからも**大切な相棒**ですね。



意識の高い研修病院では必ずやられているのが、**退院サマリーの充実**です。特に内科サマリーでは研修医のころから考察を書き、認定試験の実力をつける訓練をします。**サマリーが簡潔にまとまっていることも**指導医からチェックされます。考察ではその疾患に際して自身が学んだこと、これから気をつけていくこと、最新の知見などを記載する必要があり、そのためには**疾患自体の特徴を的確に把握**する必要があります。そんな時、**イヤードットが威力を発揮**します。疾患の経過を記述する際にも症状・検査の記載漏れを防ぐことができますし、何より新しく買った本よりも開くページが分かっているのが心強い(と個人的には感じます)。**一番開いた本です**ね。そこからワシントンマニュアルとか、他の本も開きますが、時間のあるときばかりじゃないんですよ。サマリー書くときって、**研修医時代では大事なお守り**です。

じゃあ臨床研修が終わればさすがにイヤードットともおさらばかな、と思って後期研修の先生方を訪ねてみたら、初期研修医よりも開いている人が多くてびっくりしました。新しく買いなおしているのは内科の先生。国家試験の時のもっているのは外科の先生。何を読んでいるのかと聞いてみたところ、**内科・外科認定の準備**だそうです。イヤードットに内科認定医のチェックが入っているのはそうですが、なぜ外科のシニアが読んでいるのだらうと思って聞いたら、「**これが一番沢山の病気のことがコンパクトにまとまっているから**ね。」だそうです。認定医試験はちょっと国試に近い雰囲気で作られており、たくさんの疾患についての知識を覚えなおす必要があるのだとか。しばらく持っていて損はなさそうですね。

だから

**イヤードットは研修病院に持って行こう！**  
きっと役に立つ…ハズ。